

2013年度 前期	リフレクションペーパー
-----------	-------------

学科名	生物環境化学科・建築・デザイン学科・情報学科・経営コミュニケーション学科・経営ビジネス学科						
科目名	初等回路理論						
科目区分	専門科目(文理融合科目)	単位数	2	開講時期	1年前期		
必修・選択の別	選択科目(コースA群)／自由科目(コースB群)						
担当者	中野 吉正						
授業の到達目標(シラバスから)	<ul style="list-style-type: none"> ・電流計や電圧計を目的に即して正しく接続できる。 ・オームの法則を式で表せる。コンデンサの容量の定義が説明できる。 ・回路の内線に流れる電流を、独立な閉路電流の組み合わせで書き表せる。 ・RC閉回路に流れる電流のふるまいが定性的に説明できる。 ・交流電圧のもとでコンデンサやコイルに流れる電流や電圧の変化を書き示すことができる。 ・電磁気学で使用される単位を、それぞれm, kg, s, Aの組み合わせで書き直せる。 						
日程と内容	<p>4/11 導入・電荷と電流 4/18 電圧・直流と交流 4/25 電気抵抗・オームの法則・電流計と電圧計 5/ 2 電気工学で使われる単位(2) 5/ 9 ジュール熱・小試験 5/16 回路方程式を立てるために(1) 回路方程式とは 5/23 回路方程式を立てるために(2) 回路の一般的な性質 5/30 回路方程式を立てるために(3) 回路方程式の例 6/ 6 これまでの復習・小試験 6/13 電気工学で使われる単位(2) 電気回路の法則と単位の関係 6/20 電気工学で使われる単位(3) SIの構成法 6/27 電気工学で使われる単位(4) 基本単位による表現 7/ 4 DVD鑑賞とその報告(種々の回路の役割) 7/11 コンデンサの放電・インダクションコイルの働き・再試験(第2回小試験) 7/18 総合復習 7/25 定期試験</p>						
成績評価基準	定期試験	60%	実技				
	臨時試験	20%	部外評価				
	報告書・レポート		プレゼンテーション				
	課題	20%					
	演習		計	100%			
授業到達目標の達成度	当初の到達目標は講義と何回かの演習でカバーできた。また、学生の理解度は小試験・課題・定期試験で確認できた。						
反省点	第1回の小試験までは暗記ものが主であったせいか、授業内容は比較的よく理解されたようであった。しかし、その後は簡単ではあるが論理的な思考が要求されたためか、理解率が下がった。また、この時期あたりから理解を放棄する学生が目立ってきた。その後の修学に影響するので、この段階で個別的な手当てが必要と感じられたが、結局有効な対策はとれなかった。						
来年度の計画	基本的に今年度と同じ内容で講義を進める。ただし、回路素子の役割については講義内容をより充実させたい。						
授業評価アンケートに対するコメント	この科目は初年級の導入講義であり、講義内容も基本的な事項にとどめたので、受講生の大半は比較的余裕をもって聴いていたようだった。						
履修登録者数	78名	定期試験受験者数	70名	合格者数	68名	合格率	97%